

単元名

じぶんで チャレンジ 大きくせん

教科書 上巻 p.84～93 単元の配当時間 11時間／活動時期 11～ 12月

単元の目標

家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家の人のことや自分でできることなどについて考え、家庭での生活は互いに支え合っていることがわかり、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気をつけて生活したりすることができるようにする。

小単元の目標と評価例

※ここに示した例、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
1日の生かつを ふりかえろう（3時間） 自分の生活を振り返ったり、調べたりして、規則正しく健康に気をつけて生活することの大切さがわかったり、自分のことや家の人のことを考えたりできるようにする。	知	規則正しく健康に気をつけて生活することが大切であるとわかっている。	「毎日、早寝早起きをするのは大切だね」「好き嫌いなく食べることも健康のためになるね」など、規則正しく健康に過ごすために、自分の生活で気をつけることを具体的にわかっている。	●保護者への手紙や学年だよりで、子どもたちが規則正しい生活ができるように家庭でも声かけを行ってもらえるように依頼する。
	思	1日の生活を思い起こし、自分のことや家の人のこと、自分がしていることについて表現している。	自分の生活を見直して「今は手伝ってもらっているけれど、布団たたみは明日から自分でもできそう」「お父さんがしているごみ出しを私もやってみたい」など、今、自分でできていないことの中から、自分にもできそうなことを考え、表現したり、友達に伝えたりしている。	●1日の生活を思い出せない子どもには、昨日の生活を思い出すように教師が個別に助言する。 ●教科書上巻p.86～87のイラストをもとに、自分が行っていることはないか考えさせる。
	態	1日の生活のようすを積極的に思い出したり、調べたりしようとしている。	自分の生活や家の人の生活に関心をもち、「自分でできるようにになりたい」や「自分でできることを増やしたい」など、自分の生活をよりよくしようとしている。	●1日の生活の振り返りに意欲的になれない子どもには、朝・昼・夜の生活の枠を1つでも埋めてみることを助言する。

単元の評価規準

- 知識・技能  
家庭生活に関わる活動を通して、家庭での生活は互いに支え合っていることがわかっている。
- 思考・判断・表現  
家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家の人のことや自分でできることなどについて考えている。
- 主体的に学習に取り組む態度  
家庭生活に関わる活動を通して、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気をつけて生活したりしようとしている。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
<b>できることに ちょうせんしよう（4時間）</b> 家庭生活がよりよくなるように意識して、自分で取り組むことを決めたり、実行したりして、自分でできることや家庭生活での自分の役割に気付き、自分の取り組みを見直しながら、繰り返し挑戦できるようにする。	知	自分でできることや家庭生活での自分の役割に気付いている。	「自分のことを自分でできたら気持ちがいいね」「家の人からありがとうと言われてうれしかった」など、自分でできることに挑戦することのよさに気付いたり、「新聞を取りに行くのは私の担当になったよ。家の人役に立ててうれしい」など家族の一員として、自分の役割を果たすことのよさに気付いたりしている。	●家で十分に活動に取り組めていない場合は、保護者と個別に連絡を取るようにする。
	思	家庭生活がよりよくなるように意識して、自分で取り組むことを決めたり、実行したりしている。	自分で取り組めそうなことを実行した際の家の人の反応を見て、「もっと喜んでもらうにはどうしたらよいか」を考え、試行錯誤したり、新たなことに挑戦したりしている。	●家の人との触れ合いが少ない子どもや複雑な家庭環境の子どもには、話題を選んで優しく声をかけ、自分のできる範囲で仕事に取り組めるよう支援する。
	態	自分の取り組みを見直しながら、繰り返し挑戦しようとしている。	「もっと家族みんなに喜んでもらいたいな」や「おばあちゃんの喜ぶ顔が見たいな」など、相手意識をもって、積極的に仕事に取り組もうとしている。	●家での仕事に挑戦する意欲が継続しない子どもには、どんなに小さな仕事でも、今までの取り組みを褒めるようにする。 ●保護者と連絡を取り、家庭での取り組みを褒めたり、励ましたりしてもらうように依頼する。
<b>ちょうせんした ことを はなそう（3時間）</b> 家で挑戦したことを振り返ったり、友達と紹介し合ったりして、自分も家庭を構成している大切な一員であることや、自分が家の人に支えられていることに気付き、これからも自分にできることを継続し、健康に気をつけて生活できるようにする。	知	自分も家庭を構成している大切な一員であることや、自分が家の人に支えられていることに気付いている。	「食事後の食器を自分で運ぶ」や「弟と仲良く遊ぶ」など、具体的に自分の役割がわかるとともに、それらを実行することで、家族のみんなが笑顔になるということがわかっていく。	●仕事に取り組んでみて、自分が変化したこと（できるようになったこと・成長したこと）や、家族が喜んだようすを思い出すように助言する。
	思	家庭生活をよりよくするために取り組んだことを振り返りながら、友達と交流している。	「家の人分の靴もきれいに並べることを毎日続けたら、お父さんが褒めてくれてうれしかったよ。1 日だけ忘れちゃった日があったけれど、靴がそろっていないと気持ちよく過ごせないことがわかったよ。これからは毎日きれいにしたいな」など、家族の反応や自分の反省などを具体的に振り返りながら、友達と積極的に交流している。	●これまでの活動を思い出せない場合は、かきためた記録カードを教師といっしょに振り返ったり、家での活動の写真や動画を見返すように促したりする。 ●「〇〇に挑戦したとき、お母さんは喜んでくれたかな？」など、活動を思い出すきっかけとなる声かけをする。
	態	家族の一員として、継続的に自分の役割を果たしたり、健康に気をつけて生活したりしようとしている。	自分のことは自分で行ったり、規則正しく健康的な生活をしたりすることの大切さを実感しながら、「毎日続けることが大切だね」など、これからも継続しようとしている。	●単元を始める前の自分と、さまざまなことに挑戦してできるようになったことが増えた今の自分とを比較させ、自分自身の成長を実感したり、達成感を感じたりできるようにする。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
～もう すぐ ふゆやすみ～ これまでの ふりかえろう （1時間） 夏休み後から冬休み前までの学校生活や活動、行事、学習を振り返る活動を通して、楽しかったこと、頑張ったことなどを思い出し、自分の成長に気付くことができるようにする。	思	入学してからの学校生活や活動、行事、学習を振り返り、楽しかったことやできるようになったことを付せんにかいている。	これまでの出来事を振り返り、自分の成長だけでなく、友達の成長やよさについても考えて、積極的に伝えている。	●入学してからの学校生活や活動、行事、学習のようすを撮影した写真や動画を用意して、そのときのエピソードを思い出しやすくする。 ●自分の成長を実感できていない子どもには、教師が見付けたその子の頑張りやよさを伝え、自信をもてるようにする。